

令和4年7月11日(月)

資料1-2

令和4年度第1回情報連携部会 出席者名簿

施設番号	施設名	所属	職名	氏名
	新潟県福祉保健部	地域医療政策課	医師	羽入 晋太郎
	ほその循環器科・内科クリニック	新潟市医師会	理事	細野 浩之
	高野医院	長岡市医師会	理事	高野 勝
1	県立がんセンター 新潟病院	皮膚科	副院長 患者サポートセンター長	竹之内辰也
		患者サポートセンター	看護師長副センター長	櫻井圭美
		患者サポートセンター	主査(MSW)	齋藤陽子
		患者サポートセンター	主査(MSW)	菅野まり子
		患者サポートセンター	主任看護師	大澤知佳
		庶務課	庶務係長	錦織ゆか子
2	新潟大学医歯学 総合病院	腫瘍センター	看護師長	上杉 雅子
		がん相談支援センター	MSW	石原 慎一
3	新潟市民病院	がん診療支援室	室長	伊藤 和彦
		がん診療支援室	医療福祉相談員	小林 朝美
4	県立新発田病院	診療部	診療部長兼患者サポートセンター長	長谷川 聡
		看護部(患者サポートセンター)	主任看護師	山田 史子
		患者サポートセンター	医療ソーシャルワーカー	齋藤 愛里
5	長岡中央総合病院	消化器病センター 外科	医師 外科部長	川原聖佳子
		がん相談支援センター	医療ソーシャルワーカー	村田亜由美
6	長岡赤十字病院	呼吸器内科	がん相談支援センターセンター長	石田 晃
		がん相談支援センター	看護係長	橋本 幸子
7	県立中央病院	外科部長	医局	青野 高志
		がん相談支援センター	副看護師長	樋口 伸子
		がん相談支援センター	主任 医療相談員	春川 美香
8	魚沼基幹病院	がん相談支援センター	看護師	大塚佳子
		がん相談支援センター	看護師	池田幸恵
		がん相談支援センター	医療ソーシャルワーカー	佐藤芳伸
		事務部経営企画課	事務	深野光一郎
9	済生会新潟病院	医療福祉相談室	MSW	渋川 健史
10	立川総合病院	看護部	看護師	吉岡 美鈴
		医療相談室	MSW	江部 涼太
		医療連携室	一般事務	川内 泰志
11	柏崎総合医療センター	患者サポート室	社会福祉士	五十嵐 規之
12	上越総合病院	地域連携センター	医療ソーシャルワーカー	浅野 良平
13	西新潟中央病院	医療相談室	医療社会事業専門職	吉田 大輔
14	佐渡総合病院	医療福祉相談室	MSW	本間 裕久

新潟県がん診療連携協議会
令和4年度 第1回 情報連携部会 議事録 【要旨】
(令和4年7月11日(月) 開催)

【協議(1)ア.各施設のがん地域連携パスの利用状況について】資料2-1

<利用実績>

- ・胃がんの stage I : 済生会新潟病院にて 20 件前後は安定して継続的に利用いただいている。
- ・胃がんの stage II, III : 済生会新潟病院 3 件。
- ・胃がん ESD : 0 件。
- ・大腸がん : 長岡中央総合病院にて毎年利用いただいている。1 件。
- ・乳がん : 1005 件。21 年度は初めて全県で 1000 件を超えた。使用実績のなかった新発田病院・長岡中央病院で多数導入されているので件数が伸びている。需要からしても今後も伸びていくことが予想される。
- ・肺がん、肝がん : 0 件。

【協議(1)イ.今後の課題等について】資料2-2

<各病院から挙げられた課題・意見>

- ・西新潟中央病院：肺がんパス中止が良いのではないかと
→2019 年に各部会員病院に使用されていないパスの今後の見込みや需要について各診療科の医師へ伺い集計したが、肺がんと肝がんは件数が少なく、現状に即していないという意見があった。改めて作り変えるという作業をするためにはワーキンググループを立ち上げて改変作業を行う必要があるが、そこまでの要望がなかったのに至っていない。パスは国の制度なので、形式的に残しておく必要がある。当院呼吸器外科青木医師へ確認をしたが、肺がんの UFT は現在も標準治療ではあるが、パス開始時に開業医からの賛同が得られなかったということがあった。抗がん剤の処方や肺がんのフォローは開業医には負担感が大きいものと思われる。

また、今年度の診療報酬改定で外来の機能分化が強化された。拠点病院においては外来数を減らすことが今後必要。紹介受診重点医療機関という制度が新設された。拠点病院はその対象になる病院がほとんどだと思われる。再来患者を減らし、逆紹介を促進する必要がある。急性期病院として生き残るためには逆紹介が大事になるので、地域連携パスもそれに即して需要が高まってくれば、一から作り直す必要が生じる可能性がある。

【協議(2)がん相談支援センターの活動報告・就労支援に関する取り組みの状況について】資料3

<各病院から資料3-1・3-2をもとに報告・課題・意見>

- ・がんセンター新潟病院／中央病院：ピアサポート育成に関して県で構想があれば知りたい。
→ピアサポートは要件にも盛り込まれているが、横のつながりが不足している印象。メーリングリ

スト等を使用しながらみんなで相談・共有しながらいければと思う。

- ・新潟市民病院：医療相談員が MSW のみ。SW スキル向上のための取り組み＝グループスーパービジョンを実施。
- ・新潟大学病院：オンラインサロンを YouTube 限定公開にて実施。再生回数は 180 回程度。患者から好評を得ている。
その他の相談件数訂正。0 件の誤り。
- ・長岡赤十字病院：相談対応評価表を使用して 1 例振り返りを行った。今年度も実施したい。
医療費の相談が増加。情報提供をどのように行っているのか他施設に伺いたい。
就労支援に関する周知方法を伺いたい。
→抗がん剤の治療費に関して。Web サイト「がん治療ドットコム」を紹介したい。ジェネリックや入院か外来かの明記がないので、参考程度にしてほしい。国立がん研究センターの HP に入院費概算一覧が掲載されている。DPC ベースでの入院費の概算のようだが、参考にしてほしい。
→両立支援の周知についてはどこも苦労している印象。診療科の医師に協力を仰ぐことも必要か。医師への両立支援の啓発が必要かもしれない。
- ・済生会新潟病院／長岡中央総合病院：デジタルサイネージを活用し、相談支援や就労支援の周知を図っている。
- ・新発田病院／中央病院：非がん患者の両立支援の相談にも対応している。
- ・西新潟中央病院：アスベスト関連の悪性胸膜中脾腫を報告しておらず、実績に入れていない。
建設アスベスト給付金という新たな制度が始まり、相談が増加している。相談員の中で共通理解のもと相談対応ができるよう整備している。

【協議(3)PDCA サイクル実施状況の評価について】 資料 4

<資料 4-1>

- ・PDCA 評価は例年実施。病院の規模によって違いが出てくる。がん専門病院と総合病院で診療の一部でがんをみているところと様々。一部で診療体制的に難しいところもあるかと思う

<資料 4-2>

- ・項目別の推移。自己評価 3 としている施設が増えており、活動内容が充実してきている。項目 2 のピアサポートに関することは低評価。患者会の活動はあっても、相談部門として患者会へのサポートについては共通の困難感があると思われる。県の部会としてもまずはどの程度実施できているかの情報共有から始めて、それをどのように改善していくか、アウトカム設定をし、活動のテーマとしていければと思う。

<資料 4-3>

- ・病院別の推移。多くの施設で自己評価 3 の項目が増えている。地域がん拠点病院と準拠点病院では施設の体制的に難しいところもあるかと思うが、評価が高くなるようお互い努力していけたらと思う。今後も継続して調査をしていく。

【3 第 18 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の報告】 資料 5

- ・都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の情報提供相談支援部会（5月26日開催）の報告。
- ・「4. がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針および次期基本計画策定に向けての提案書についてのご報告」に関して。
- ・「6. がんと診断されて間もない人への情報資材の活用について」冊子のご紹介。

【4 令和3年度地域相談支援フォーラム開催報告と今後の予定について】 資料6

- ・がんセンター新潟病院 櫻井副センター長より資料6をもとに開催報告。
- ・2022年11月19日（土）13時～17時 オンライン開催 栃木県
- ・テーマ：『「がん相談にかかわる専門職として倫理を語ろう」がん専門相談員に求められる姿勢、がん相談10の原則』
- ・各拠点病院1名は参加をお願いしたい。
- ・フォーラムのシンポジスト選出は各拠点病院の持ち回り制とし、今年度は新発田病院。
- ・次回新潟県担当フォーラムは令和9年度。

【5 新潟県がん相談員研修会のお知らせ】 資料7

- ・がんセンター新潟病院 齋藤 MSW より資料7をもとに説明。
- ・テーマ『妊孕性温存療法と治療費助成制度を学び、支援につなぐ（仮称）』
- ・日程：令和4年10月16日（日） 13:00～16:10
- ・研修企画担当：魚沼基幹病院 池田・佐藤、がんセンター齋藤
- ・正式な案内は8月以降。グループファシリテーターは指導者研修を修了した方に依頼予定。

2021年度 医療連携ノート利用(発行)状況(2021年4月~2022年3月)

資料2-

胃がんステージⅠ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2020年度
がんセンター													0	0
新潟大学													0	0
新潟市民													0	0
県立新発田													0	0
長岡赤十字													0	0
長岡中央													0	0
県立中央													0	0
済生会新潟	0	1	1	2	0	1	2	3	2	1	1	0	14	19
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合													0	0
西新潟中央													0	0
佐渡総合病院													0	0
計	0	1	1	2	0	1	2	3	2	1	1	0	14	19

胃がんステージⅡ・Ⅲ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2020年度
がんセンター													0	0
新潟大学													0	0
新潟市民													0	0
県立新発田													0	0
長岡赤十字													0	0
長岡中央													0	0
県立中央													0	0
済生会新潟	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3	3
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合													0	0
西新潟中央													0	0
佐渡総合病院													0	0
計	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3	3

胃がん ESD

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2020年度
がんセンター													0	0
新潟大学													0	0
新潟市民													0	0
県立新発田													0	0
長岡赤十字													0	0
長岡中央													0	0
県立中央													0	0
済生会新潟													0	0
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合													0	0
西新潟中央													0	0
佐渡総合病院													0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大腸がん

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2020年度
がんセンター													0	0
新潟大学													0	0
新潟市民													0	0
県立新発田													0	0
長岡赤十字													0	0
長岡中央	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
県立中央													0	0
済生会新潟													0	0
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合													0	0
西新潟中央													0	0
佐渡総合病院													0	0

計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

乳がん

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2020年度
がんセンター	28	23	27	19	26	19	26	25	24	24	24	29	294	289
新潟大学	10	10	10	8	6	2	12	9	5	8	7	13	100	132
新潟市民	17	19	21	19	18	18	21	18	20	15	20	18	224	176
県立新発田	9	6	6	8	5	6	8	6	6	7	5	7	79	64
長岡赤十字	6	4	11	14	10	12	9	8	9	11	12	20	126	139
長岡中央	4	1	3	1	3	5	4	4	8	8	6	10	57	57
県立中央	6	4	5	8	2	7	6	8	9	5	8	12	80	77
済生会新潟	5	8	2	3	3	3	5	4	2	0	4	6	45	23
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合													0	0
西新潟中央													0	0
佐渡総合病院													0	0
計	85	75	85	80	73	72	91	82	83	78	86	115	1005	957

肺がん

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2020年度
がんセンター													0	0
新潟大学													0	0
新潟市民													0	0
県立新発田													0	0
長岡赤十字													0	0
長岡中央													0	0
県立中央													0	0
済生会新潟													0	0
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合													0	0
西新潟中央													0	0
佐渡総合病院													0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

肝がん

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2020年度
がんセンター													0	0
新潟大学													0	0
新潟市民													0	0
県立新発田													0	0
長岡赤十字													0	0
長岡中央													0	0
県立中央													0	0
済生会新潟													0	0
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合													0	0
西新潟中央													0	0
佐渡総合病院													0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

実態調査② がん相談支援センター

病種名 相談窓口の名称	設置者		相談員職種	相談員件数 (2021.4.1~2022.3.31)	がん相談員研修受講済の職員							相談支援のスキル向上を目的とした取り組みの状況	研修・普及の取り組み状況 (相談員の研修等)	今後検討・計画していること	情報連携委員会に関するご質問等				
	専任：がん相談員以上 専任：がん相談員未満	職種			氏名	職種	期間(1)	期間(2)	期間(3)	研修等	研修時間								
国立がんセンター 新横浜院 患者サポートセンター	専任(8名以上) 大塚知佳 専任(5名以上) 菅野まり子 その他	看護師 MSW	入院支援	面接相談	5335	徳井圭典	看護師	○	○					-1回/週の事例カンファレンス、1回/月相談モニタリング開催 -北東癌相談支援フォーラムの開催・参加 -相談支援に関する研修への参加(小児がん専門相談員、相談員研修、再入院支援コーディネーター、医師マイスター)	-相談員研修の企画 -新患患者へ患者サポートのリーフレット配布。 院内リーフレット設置。	-AYA世代患者への支援の強化	がんサポート育成に際して新潟県が計画しているものがあればおしえてほしい。		
				電話相談	9025	川井智理	公認心理士	○	○										
				その他	0	上山裕美	社会福祉士	○	○										
						菅野まり子	社会福祉士	○	○										
						大下多恵子	社会福祉士	○	○										
						吉田志穂	看護師	○	○										
						大塚知佳	看護師	○	○	○	○								
						藤田健	看護師	○	○										
						大矢明子	看護師	○	○										
国立新横浜病院 がん相談支援センター	専任(8名以上) 山田史子 専任(5名以上) 高橋聖美	看護師 MSW	入院支援	面接相談	852	高橋聖美	社会福祉士	○	○				がん相談員研修等の受講	-院内ポスターの掲示 -リーフレットの設置					
				電話相談	1016	青藤 純	看護師	○	○	○	○								
				その他	0	石山結美	社会福祉士	○	○	○	○								
						山田史子	看護師	○	○	○	○								
新潟市立病院 がん相談支援センター 医療総合センター スワンプラザ内	専任(8名以上) 小林純美 専任(5名以上) 藤澤美里 その他	MSW MSW MSW	入院支援 患者相談業務	面接相談	425	丹野裕孝	MSW	○	○	○	○		-MSW内における指導体制としてソーシャルワーカー人材育成システムを構築； -経験年数等に応じ、指導体制のグループを構成。各自年度ごとのスキルアップのための目標を設定し、達成状況の評価をグループ内の指導者とともに年2回行っている。 -院外で開催されているソーシャルワーク支援技術向上のための勉強会・研修会(グループスーパー・ビジョン等)への参加	院内のポスター掲示、リーフレット設置 院内スタッフ向け広報誌、一般市民向け広報誌での広報 -緩和ケア研修会での広報	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い休中止中である患者サポートの拡大について。 -緩和ケアを促進するため、再発時期やリハビリに関する研修方法(医師対症指導)について、病院管理層等とも相談の上、検討して予定。				
				電話相談	270	小林純美	MSW	○	○	○	○								
				その他	0	藤澤美里	MSW	○	○	○	○								
新潟大学医学部総合病院 医療総合サポートセンター	専任(8名以上) 石原慎一 専任(5名以上) 山原聖美	MSW 看護師	遠隔治療業務	面接相談	1525	石原慎一	MSW	○	○	○	○		各種研修会の参加	-院内スタッフ向けがん相談支援センター情報の発行 -オンライン(YouTube)でがん相談を実施					
				電話相談	958	山原聖美	看護師	○	○	○	○								
				その他	2483														
済生会新潟病院 医療福祉相談課	専任(8名以上) 池川麻史 専任(5名以上) 月岡多恵子	MSW MSW	入院支援	面接相談	537	池川麻史	MSW	○	○	○									
				電話相談	84	月岡多恵子	MSW	○	○	○									
				その他	3														
長岡赤十字病院 がん相談支援センター	専任(8名以上) 橋本幸子 専任(5名以上) 田村栄治 その他	看護師 医師社会事業員	遠隔支援等専任職員	面接相談	410	田村栄治	看護師	○	○	○		昨年度は「相談対応評価表」を用いた評価を1例実施した。施設内で研修を評価することで、ニーズを把握し下げる工夫ができた。対応の確がながたことと、継続したい。	COVID-19の影響で集合同議を中止している。病院にはWeb開催を提案しているが、開催は未定である。	件数が揃っているわけではないが、医療費・生活費に関する相談が深刻化している印象がある。医療費のくすりかかるか予測できないことも不安を要因となっている。医療費に関する情報提供を行っているところがあれば教えていただきたい。可能であれば情報連携部会で、主要な化学療法の見直しなどを共有を希望。					
				電話相談	238	宇佐美博子	医師社会事業員	○	○	○									
				その他	0	橋本幸子	看護師	○	○	○									
医師中央総合病院 がん相談支援センター	専任(8名以上) 遠藤幸純 専任(5名以上) 村田由由美 菊川和也	看護師 MSW MSW	医療福祉相談 医療福祉相談	面接相談	223	遠藤幸純	看護師	○	○	○		-相談員間の相談事例の共有と対応の振り返り -研修会等での自己研鑽	-広報誌掲載 -病院文庫の案内更新	-デジタルサイン等の活用					
				電話相談	184	村田由由美	MSW	○	○	○									
				その他	0	菊川和也	MSW	○	○	○	○								
						金澤礼樹	MSW	○	○	○	○								
国立中央病院 患者サポートセンター がん相談支援センター	専任(8名以上) 樋口伸子 専任(5名以上) 香川典尚 その他	副看護部長 主任医療相談員 公認心理士	患者サポート 患者サポート	面接相談	549	米山 友	医療相談員	○	○	○		がん専門相談員研修の受講を促し、相談スキル向上を図る(専門看護師、認定看護師など)		-当院がん相談支援センター(リーフレット)更新やがん情報に関連したリーフレット/リーフレットの整備を継続する。					
				電話相談	143	渡邊俊	医療相談員	○	○	○									
				その他	0	香川典尚	主任医療相談員	○	○	○									
						樋口伸子	副看護部長	○	○	○									
倉田総合病院 がん相談支援センター	専任(8名以上) 池田幸恵 専任(5名以上) 佐藤芳伸 その他	看護師 MSW 看護師 看護師	福祉相談・遠隔支援 管理業務 緩和ケア業務	面接相談	556	大塚佳子	看護師	○	○	○		がん情報センターの相談員研修の研修受講 -各種研修会への参加	-院内情報コーナーを開設し、送付されてくるWEB研修などのチラシ。その他がん関係する冊子を設置し配布・閲覧できるようにした。	-院内緩和ケア研修会、当院スタッフ対象がん相談支援センターに関する内容で研修会を計画中。 -今年度の指導者研修に参加し、他院と協力して相談員研修会開催を計画中。					
				電話相談	286	佐藤芳伸	MSW	○	○	○	○								
				その他	2	池田幸恵	看護師	○	○	○	○								
						石田可奈子	看護師	○	○	○	○								
西新井中央病院 患者さん相談窓口	専任(8名以上) 専任(5名以上) 吉田大輔	MSW	医療福祉業務	面接相談	54	吉田大輔	医師社会事業員	○	○	○									
				電話相談	0														
				その他	0														
立川総合病院 医療相談課	専任(8名以上) 専任(5名以上)	看護師	入院支援	面接相談	42	勝山啓美	看護師	○	○			-勉強会や研修会への参加。 以上を踏まえて、相談支援・自己研鑽を継続している。							
				電話相談	6														
				その他	0														
柏崎総合医療センター がん相談支援センター	専任(8名以上) 専任(5名以上) その他	看護師	病棟専任業務 遠隔支援業務	面接相談	153	横岡孝江	看護師	○	○										
				電話相談	77														
				その他	0														
上越総合病院 がん相談支援センター	専任(8名以上) 専任(5名以上) その他	MSW	病棟入院支援業務	面接相談	121	浅野良平	社会福祉士	○	○										
				電話相談	10														
				その他	8														
佐藤総合病院 がん相談支援センター	専任(8名以上) 本間裕久 専任(5名以上) 栗田健	MSW 医師 医師	入院支援	面接相談	166	本間裕久	MSW	○	○	○		個人学習が中心になっています。	令和3年度に県内医療機関を対象に「緩和ケア」における地域連携について10アンケートを実施しました。	県内の介護保険サービス事業所などのアンケートを計画しております。					
				電話相談	185	栗田 健	医師	○	○	○									
				その他	0	中川慎子	看護師	○	○	○									

7

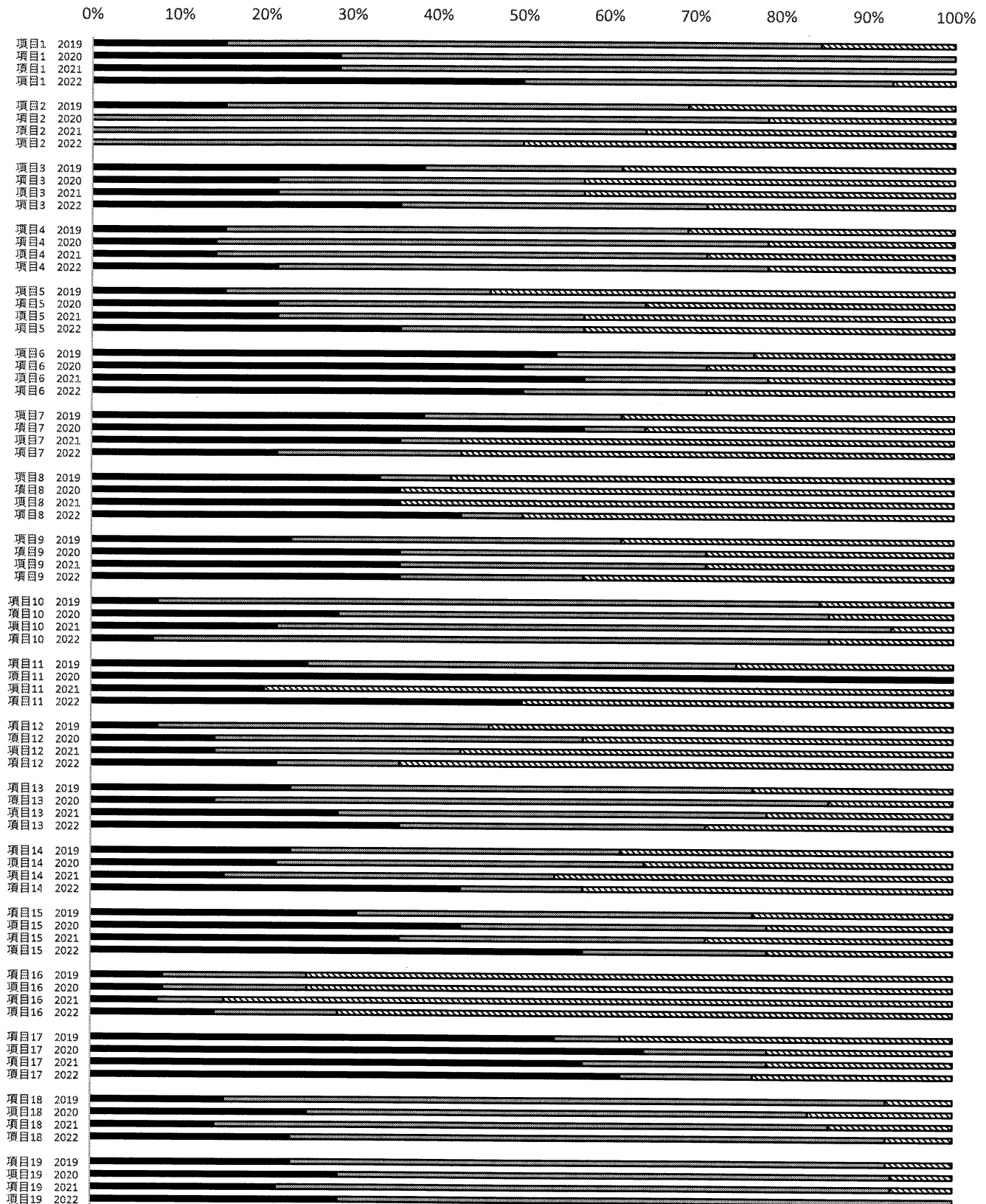
実態調査③ 就労支援について

資料3-2

病名	1. ハローワークとの連携について					2. 産業保健総合支援センターとの連携による仕事と治療の両立支援について				
	①実施状況		②相談実績		③今後の計画	④就労支援の取り組みについての課題	①実施状況		②両立支援促進介入件数	
	ハローワークの定期出張情報	実施状況	相談件数	個別相談件数			R3	R4	R3	R4
県立がんセンター新潟病院	あり	毎週水曜日 10時～15時実施。 コロナ感染防止のため、予約制。	R3 16件 3件 R4 3件 0件		外来患者にハローワークや産業保健総合支援センターのリーフレットを配布し、就労支援について周知を図っている。 入院患者については、退院支援スクリーニングにて就労支援のニーズについて把握し、希望に応じて出張相談を紹介している。 今年度は院内スタッフ向けの就労支援に関する研修開催を予定している。		両立支援促進員との面談は、患者の希望に応じて産業保健総合支援センターと日程調整し随時実施している。 外来・入院患者への情報提供は、ハローワークの出張相談と同様の形で行っている。 事業場に産業医がいるケースがなく、コスト算定には至っていない。	R3 3件 R4 0件		
県立新潟田病院	あり	R3年7月よりハローワークによる出張相談を開始した。 毎月第2、第4水曜日 14:00～16:00	R3 17件 1件 R4 2件 0件		院内にチラシ、リーフレット設置することにより周知の継続	他病院での取り組み方法や事例紹介など			R3 0件 R4 0件	
新潟市立病院	あり	毎月2回（第2水曜日、第4火曜日13:00～16:00）出張相談を実施。 新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、これまで上記日時・時間帯に就業支援ナビゲーターに来院・在室していただいていたところを、出張相談予約が入っているときのみ来院とし、時間も相談予約が入っている時間帯のみ在室いただくこととしている。	R3 9件 2件 R4 4件 1件		ポスター掲示及びチラシ設置場所について、より効果的な場所・方法について検討中。 外来にある電子掲示板を活用しての周知・広報について検討中。 （乳癌外科医師の協力を得、昨年11月より、外来診察において患者さんより就労に関する心配ごと等の話が聞かれた際、医師よりハローワーク出張相談等のチラシを患者さんへ差し配してもらうこととした。）	患者さんからの希望に応じ、随時日程調整の上、出張相談を実施している		R3 1件 R4 1件		
新潟大学医学部総合病院	あり	特定の出発日は設けず、希望時に出張相談の調整を行っている。 相談支援センター等を介さずに直接ハローワークに出向き、就労支援を受けられている患者さんも多くおられる。	R3 1件 0件 R4 0件 0件		ハローワーク新潟からの提案を受け、オンライン面談の実施について院内で検討中である。		特定の出発日は設けず、希望時に出張相談の調整を行っている。	R3 2件 R4 0件		
済生会新潟病院	あり	毎月第3金曜日14時～15時、完全予約制にて出張相談を実施。	R3 1件 0件 R4 0件 0件		院内のデジタルサイネージを使用した周知について、改訂を計画中。		協定書を交わし、必要時に随時調整を行う体制。	R3 0件 R4 0件		
県南赤十字病院	あり	第1（水）10時～、 第3（金）14時～ →フレット相談（随時）	R3 6件 2件 R4 2件 0件		2021年11月からフレット相談を実施。これまでに4名が利用され、好評だった。COVID-19流行時期は特に、避難を避けられるフレットのメリットを感じた。今後もフレット相談を活用していただけるよう、PRしたり、より効果的な利用方法を検討する。	就労支援に関するPR方法を教えてください。（当院は、がん相談支援センター案内冊子・HPに情報を載せたり、がん情報コーナーにチラシを設置したりしています。）	必要時に日程調整。	R3 0件 R4 1件		
県南中央総合病院	あり	毎月第2金曜日と第4火曜日 13時30分～15時00分 出張相談対象者無しの時は30分程度の情報交換 出張相談日と日程が合わない方に対しオンライン（Zoom）相談	R3 3件 1件 R4 2件 0件				就業中の方は制度を伝えている。 職場への伝え方もアドバイスする程度で解決し、支援依頼するケースがなかった。	R3 0件 R4 0件		
県立中央病院	あり	日時：毎月第2、4水曜日 午後14時～16時。 基本、当院での面談を施行しているが上越地域コロナ状況で院内感染対策の指示に応じて対応。相談者が直接ハローワークでの面談ケースあり。結果についてハローワーク担当者と情報共有を行っている。	R3 4件 1件 R4 1件 調整中		就労支援に関するパンフレットの整備をハローワーク担当者と一緒に情報共有を行い周知を図る。			R3 0件 R4 0件		
魚沼基幹病院	なし		R3 0件 0件 R4 0件 0件		院内情報コーナーに就労に関するチラシを置く。 相談内容の中で積極的に情報提供していく。		患者相談の中で、希望者に情報提供している。患者から了解が得られれば、さんぽセンターへ連絡相談し協働して支援している。	R3 0件 R4 1件		
西新潟中央病院	なし		R3 0件 0件 R4 0件 0件					R3 0件 R4 0件		
上川総合病院	なし	相談実績はなし、必要時には連携していきたい。	R3 0件 0件 R4 0件 0件		継続してポスター掲示や、院内リーフレットを配置し周知を行っている。必要時には随時相談を行っている。	外来や化学療法室で就労について相談されることはある。都度リーフレット等を用いて両立支援の周知を図っているが、現状相談実績には繋がっていない。	相談実績は今のところはない。 必要時には患者様・その御家族様には情報提供できるようにしており、またその体制を整えている。	R3 0件 R4 0件		
柏崎総合医療センター	なし		R3 0件 0件 R4 0件 0件				昨年度、産保センターと調整したケースがありました。（休職中の診断書の準備について、本人、産保センター保健師、就労支援委員、MSWと面談。）引き続き外来入院等から相談があれば対応する予定です。	R3 1件 R4 0件		
上越総合病院	あり	定期出張相談は月1回第3水曜日となっておりますが、コロナ禍ということもあり、中止となることが多々ありました。	R3 3件 1件 R4 0件 0件		院内関係職員へ事業の周知を実施 各外来に事業周知のポスターを掲示		事業のパンフレット送付あり、各外来等へ設置している	R3 1件 R4 0件		
佐渡総合病院	なし		R3 0件 0件 R4 0件 0件		個別相談を継続していく予定です。		令和3年度は、電話連絡中心でした。 産保センターより連絡を頂き、本人や会社の方とお話したケースがありました（外来の方）。 *会社より産保センターに相談があり、当院に連絡いただいたケースです。	R3 0件 R4 0件		

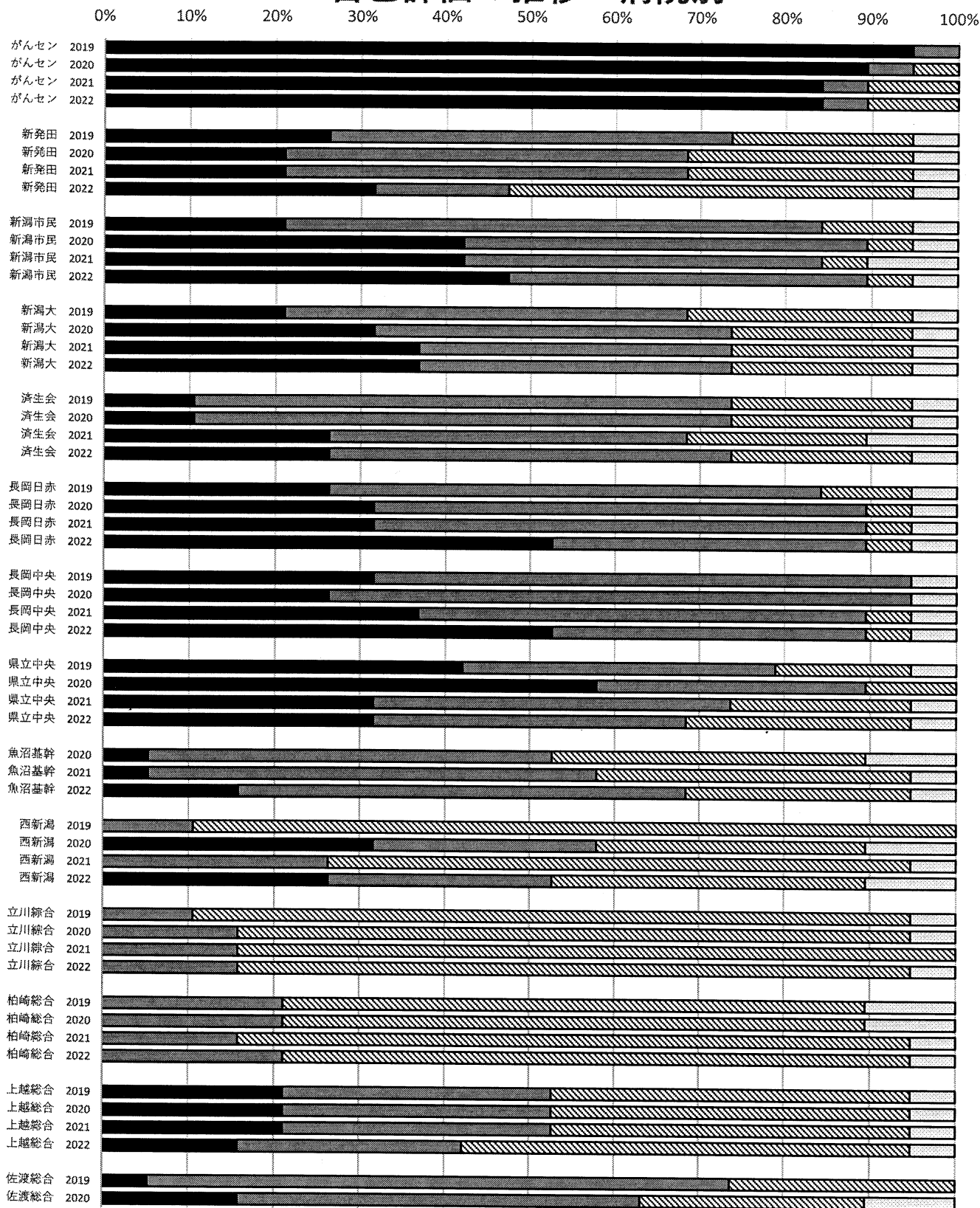
	がんセンター	新発田	新潟市民	新潟大学	済生会新潟	長岡赤十字	長岡中央	県立中央	魚沼基幹	西新潟	立川総合	柏崎総合	上越総合	佐渡総合
1	病院管理者およびがん相談支援センター管理者は、院内掲示や配布物（チラシ・診療案内・入院案内・院内広報誌等）、病院ウェブサイト等で、がん相談支援センターの窓口をわかりやすく提示し、それを定期的に見直している	3	3	3	2	2	3	3	2	3	2	2	1	2
2	ピアサポートの場をつくっている、またはピアサポートの提供が可能な場（患者会・患者サロン・ピアサポーター等）についての情報を提供することができる	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	2	1
3	病院管理者およびがん相談支援センター管理者は、がん相談支援センターの役割（質の高いがん相談支援に求められる基本姿勢「Core Values」を含む）や業務を、院内スタッフに対して周知する機会（例：新人オリエンテーション・医局会等）を定期的に設けている	3	3	2	1	3	2	3	2	3	2	1	1	2
4	病院管理者およびがん相談支援センターの管理者は、がんの患者・家族等に対して、診断初期の段階から主治医等よりがん相談支援センターの案内がなされるよう院内の体制を整備している（例：リーフレットや案内カードを渡しセンターを案内するよう、各診療科長を通じて全てのがん診療を担当する医師に依頼する等）	3	3	2	2	3	2	2	2	2	2	1	1	2
5	基本計画や整備指針等でがん相談支援センターに新たに求められている事項や業務（例：ゲノム医療・希少がん・AYA・生殖機能等）に関連する研修（Eラーニング・集合研修）に参加している	3	2	3	3	1	3	2	1	3	1	1	2	1
6	病院管理者およびがん相談支援センターの管理者は、相談員に対し継続的な学習の機会を保証し、参加を促している（例：研修参加や認定がん専門相談員の認定取得を促す、必要経費の支出、不在時職務代替者の調整等）	3	1	3	2	2	3	3	1	2	3	1	1	3
7	病院管理者やがん相談支援センターの管理者は、がん相談支援センター内に相談員指導者研修を修了した者を配置している	2	1	3	2	1	3	2	3	1	1	1	1	1
8	がん相談支援センター内での情報共有や相談傾向の把握・課題抽出、他施設との比較ができるよう、相談記入シート（情報提供・相談支援部会で採用された「相談記録のための基本形式」）を用いて相談記録を作成している	1	3	3	1	1	3	3	3	3	2	1	1	1
9	相談者からの相談内容や対応を分析し、改善しうる課題について検討している	3	1	3	3	2	2	3	2	1	1	1	1	3
10	がん相談支援センター内で検討された課題や解決策を、必要に応じて病院管理者等に報告し、がん相談支援センターや病院全体としての質向上につなげている	3	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2
11	【都道府県拠点または部会担当施設】 部会で検討して解決が困難な課題を、上部の協議会に挙げ、解決をはかる仕組みがある	3		該当せず				-	-		不明	1		
12	病院管理者およびがん相談支援センターの管理者は、がん相談支援センターで提供された支援に対する利用者からのフィードバックを得るための体制を整備している（例：センター利用者への満足度調査の実施、病院として実施する患者満足度調査に部門評価を含める等）	3	1	2	1	3	3	1	1	2	1	1	1	1
13	がん相談支援センター内で情報提供・相談支援に活用する情報についての検討を定期的に行い、科学的根拠に基づく情報・信頼できる情報の整備・更新に努めている	3	1	2	3	2	3	3	2	2	3	1	1	2
14	がん相談部門のマニュアルや相談対応のQ&Aをセンター内で作成し、定期的に更新している	3	1	3	3	2	3	3	2	1	1	1	1	1
15	病院管理者は、がん相談支援センターの相談員をバックアップするための多職種連携・協働体制を整備している（例：相談員が相談対応で困ったときに助言を求められる担当者を定めるよう各診療科・部門に指示する等）	3	3	2	3	3	3	3	1	3	1	1	2	2
16	相談対応した際の記録（音声データ等）とがん相談対応評価表等を用いて、定期的に相談対応のモニタリングを行っている	3	1	1	1	1	3	2	1	1	1	1	2	1
17	がん相談支援センター内で個人情報の取り扱い（守秘義務遵守・相談記録管理等）方針について定め、遵守されている 例：相談者の同意なく、主治医など相談支援センター外に伝えない等のルールが明文化されている	3	3	3	3	3	1	3	1	2	3	0	1	3
18	情報提供・相談支援に活用するがんに関する図書、小冊子やリーフレットは、センター内で内容を精査し、正確な情報が掲載されているものを設置・配布している	3	2	2	2	2	2	3	2	2		2	1	3
19	都道府県内のがん診療連携協議会や相談支援部会（部会下に設置されるワーキンググループ等含む）に参加し、病院間での情報共有や役割分担を含む協力体制の構築を行っている	3	2	3	3	2	2	2	3	2	2	2	2	2

自己評価の推移 項目別



■ 3 ■ 2 ■ 1

自己評価の推移 病院別



■ 3 ■ 2 ▨ 1 □ 未回答

2021年度 北関東甲信越ブロック 地域相談支援フォーラム in新潟 報告



令和4年5月26日
新潟県立がんセンター新潟病院
患者サポートセンター
櫻井 圭美

フォーラム概要

- 2021年11月21日（土）13:00～17:00
- 参加者 125名
(茨城9名、群馬10名、栃木27名、長野17名、新潟46名、山梨13名、東京3名)
- テーマ
「AYA世代がん患者への支援を考える
～「未来を担う世代」の今と未来を支える初めの一步～」
- 研修目的
AYA世代がん患者が直面しやすい困りごとに対して組織として 取り組んでいることや、課題としてとらえていること、また、地域と共に取り組んでいることを知り、自部署組織に活かす機会とする。

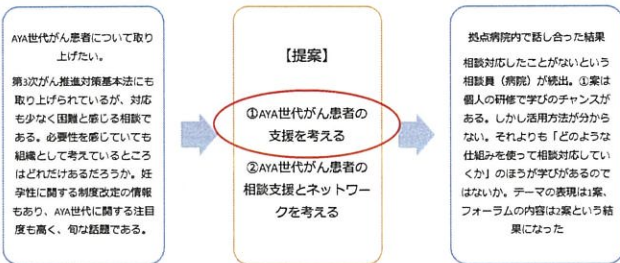
プログラム内容

開会の挨拶
フォーラム第1部 各県シンポジストの発表
基調講演 「相談員としてAYA世代がん患者に必要な支援とネットワークの活用」 聖路加国際病院 AYAサバイバーシップセンター 橋本久美子先生
フォーラム第2部 講師と各県シンポジストによるディスカッション テーマ 『AYA世代がん患者の相談を受ける体制の課題と取り組み』
引き継ぎ式
閉会の挨拶

テーマ・プログラム決定までの流れ① 主催病院として考えたこと

- 北関東甲信越ブロックでは患者の意思決定支援のテーマが2年続いた。別なテーマを設けることで参加者の関心を引くことができるのではないか
- 主催病院では、このころAYA世代をテーマにした研修会を開催しており、研修参加者の反応が良いことから、「AYA世代がん患者の相談支援」をテーマとすることに決定した。
- テーマは主催病院で決定したが、フォーラムの内容（方向性とサブテーマ）は新潟県の実行企画委員と協議することにした。

テーマ・プログラム決定までの流れ② テーマの選定について（新潟県内）



テーマ・プログラム決定までの流れ③ プログラム構成について（新潟県内）

- オンラインを使ったフォーラムを開催する
 - 開催時間 半日に短縮（13時～17時）
 - 開催方法について検討（下記3つの意見が集まる）
 - ①聴講のみ
 - ②シンポジストがディスカッションする
 - ③グループワークを実施する
 ⇒①②③から選択。その理由、具体的な進め方、時間配分を提案する。
 - ②の選択が多数。集まった意見は資料にまとめ各委員に配布。
- 慣れないオンラインで③グループワークをやることは自己紹介で終わってしまうかもしれない。それよりも事前に質問を集めて講師の先生にも参加していただきディスカッションが盛り上がったほうがおもしろい。
- 会議は2回/月
オンライン定期会議を実施した。

テーマ・プログラム決定までの流れ④ ディスカッションについて（新潟県内）

フォーラムでは、AYA世代患者の相談を相談員が一人として悩むのではなく相談支援センターが組織として取り組めるようなヒントを、一つでも持ち帰ってほしい。組織体制を整備することは、患者が相談しやすく、相談員が相談対応しやすい環境を整えることになり、自部署の課題も明確になりやすい。

ディスカッションテーマ

「相談を受ける体制の課題と取り組み」

- *そもそも患者さん来ない。 *なぜ来ないの？ *一人で悩みを抱えているのかな？
- 方向性をしぼるために、フォーラム参加者もシンポジストにもAYA世代に関するアンケートをとったほうが課題をしぼりやすい。講師の先生への質問も事前に集めよう。
- ★事前アンケートからディスカッションの方向性を主催病院がまとめ、決定事項として同意を得ていった。

ブロックを意識して考えたこと①

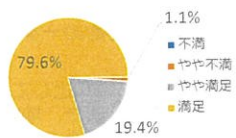
- 各県発表では以下の2点について発表をお願いし、その内容を踏まえディスカッションで自部署組織に活かせることが見出せるのではないかと

《発表者（シンポジスト）へお願いをしたこと》

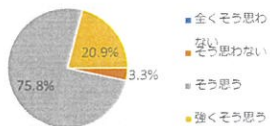
- ①どのような事例でも構わないので**成功事例**の発表をお願いしたい。特に妊孕性や小さい子供を持つYA世代、または15才以降のA世代患者との関わりなど。
- ②成功事例がなかった場合、**印象に残る事例**から、**どんな整備が必要だと思ったか**、特に院内のどこに理解してもらわなければならないのか、**相談支援センターが取り組む課題が何かと考えたか**、などの発表をお願いしたい。

フォーラム終了後 アンケート結果

1) 総合評価
(93件の回答)



2) ディスカッションを聞いて
自部署の課題は明確になりましたか？ (91件の回答)



アンケート自由記載

各シンポジストの皆さんのお話から、当院ではまだまだ個で相談に乗っていると感じました。院内の体制や、各診療科、各部署への周知や、AYA世代に必要な支援など今後勉強会等開けると良いと感じました。

各県の取り組みや講演が具体的に参考になる内容であり、実のある研修でした。

様々な切り口からAYA世代への支援を考えることができました。活用できそうなツールの情報も得ることができ、明日からの相談に役立てたいと思います。

フォーラムの目的

AYA世代がん患者の相談を相談者個人の対応として考えるのではなく、組織として考え、自部署組織に活かす機会にする。

フォーラムの目的は達成！

がん相談の倫理って何だろう？

～倫理の理解を深めてモヤモヤ解消！

「これでよかったのかな？」を考えよう～

シンポジウム1・2

「がん相談にかかわる専門職として倫理を語ろう」

講演

「がん相談に潜む倫理問題に気づき、対処するために」

講師 いなば法律事務所 弁護士

日本臨床倫理学会副理事長 稲葉 一人先生

Zoomによる
オンライン開催
参加費無料

日時 2022年11月19日（土）13:00～17:00
（12:30～受付開始）

* 認定がん専門相談員Ⅲ群対象研修となります。研修時間の3/4以上の参加が必要です。

対象 北関東甲信越地区6県のがん相談支援業務を行う相談員
(地区外からの申込をご希望される方は、下記事務局までご相談ください)

定員 100名（事前予約制）

申込 下記URLかQRコードよりお申込みください
同施設から複数名で参加の場合は各自でお申込みください
<https://forms.gle/tu8Sjcfqv3AmMfs8A>
申込締切日：2022年10月7日（金）



主催 栃木県がん診療連携協議会 相談支援部会
後援 栃木県、茨城県、群馬県、新潟県、山梨県、長野県
国立がん研究センターがん対策研究所（申請中）

お問い合わせ

栃木県がん診療連携協議会 事務局

(栃木県立がんセンターがん相談支援センター)

☎028-658-6484

✉ tochigiforum2022@tochigi-cc.jp

